

## 「こどもまんなかふっさ」の構築について



公明党  
五十嵐 みさ 議員



**質問** 「こどもまんなかふっさ」の基本的な考え方や取り組みを伺う。

**市長** 「こどもまんなかふっさ」は、国が提唱する「こどもまんなか社会」になぞらえた新たなスローガン。令和5年4月に国においてこども家庭庁が設置され、子ども政策を総合的に推進するための方針「こども大綱」が策定される。これを受け、市でも子ども家庭部に子ども政策課を設置し、「こども計画」を策定予定。今後も「子育てするならふっさ」と「こどもまんなかふっさ」の両輪で積極的な政策を展開していく。

も大綱」が策定される。これを受け、市でも子ども家庭部に子ども政策課を設置し、「こども計画」を策定予定。今後も「子育てするならふっさ」と「こどもまんなかふっさ」の両輪で積極的な政策を展開していく。

**福生市における誰ひとり取り残さない教育について**

**質問** 「令和における福生市立学校の在り方検討委員会」の令和4年度のまとめと今後の展開を伺う。

**教育長** 小中一貫校の導入をテーマに5回開催した。令和4年度最後の委員会では、これまで協議を重ねた事項に関する意見を整理し、今後は提言として報告書をいただく予定。



▲4月に新設された子ども政策課の窓口

## ケアリーバーへの支援について



公明党  
青木 健 議員



**質問** ケアリーバーとは、ケア(保護)とリーバー(離れた人)を合わせた造語で、児童養護施設や里親家庭等の社会的養護経験者のこと。日本では、原則18歳到達後、その養護から離れ自立を求められるが、頼れる大人が周囲におらず、孤立、生活苦に陥ることが問題視されている。

誰一人取り残さない社会を目指し、ケアリーバーの孤立を防ぐ必要があると考えるが、所見を伺う。

**市長** 本市では児童養護施設を退所した方に限らず、すべての方に対して、健康面、生活面、経済面、仕事や人間関係等、本人の訴えに応じた各担当部署が相談を受け、関係機

関と連携した支援を行っている。緊急の場合は、生活困窮者自立支援事業の窓口で対応、長期的には、相談をする際に迷うことがないように、また、各制度対象から誰一人取り残されないための施策として、重層的支援体制整備事業を移行準備期間を経て実施していく予定である。



## 学校給食費の無償化について



日本共産党  
池田 公三 議員



**質問** 現在、学校給食費無償化は全国的に大きなムーブメントとなっている。本市が多摩26市で最初に無償化を行えば、子育て世代の転入や少子化対策が期待できる。また、本市は積立金の取り崩しもなく臨時財政対策債の発行も必要ない、余裕のある予算組み。これまでの待ちの姿

勢から攻めの姿勢に転換することで、給食費無償化のムーブメントを決定的なものにし、国や都を動かすことにつながると思うが、見解を伺う。

**教育長** 学校給食費は、学校給食法第11条第2項に保護者の負担とすると明記されている。学校給食費の無償化は国等において法律改正な

どがなされた上で対応すべきものとするため、現時点では実施する予定はない。学校給食費の無償化を開始した自治体は、地域性や財政状況等を鑑み、当該自治体独自の事情で行っているものと捉えている。今後も、国や東京都、他自治体の動向を引き続き注視していく。



## 高齢者補聴器の購入費の助成について



日本共産党  
市毛 雅大 議員



**質問** 現在、高齢者補聴器の公費助成は、障害者認定された高度難聴者に限られている。最近、補聴器購入助成を行う自治体が増えてきているが、本市の所見を伺う。

**市長** 助成については、東京都市長会が都に対し補助の充実を要望しており、現時点で本市において購入

費助成の予定はないが、国や都の補助がなされた場合には検討したい。

**入札等の公契約の制度について**

**質問** 福生市競争入札参加事業者等審査会の役割と、P点(総合評価値)の設定基準について伺う。

**市長** 本審査会の役割は、市の競争入札または随意契約による契約を

適正かつ公正に行い、入札制度の適正化を図るために必要な事項の審査等を行うことである。P点は国土交通省の中央建設業審議会が設定するが、基準については、制限付一般競争入札の参加資格要件として告示する場合等を除き、市の公正な入札を確保するため非公開としている。



## 子どもの生活支援の今後について



立憲民主党  
市川 佳樹 議員



**質問** 現在、日本の子どもの貧困割合は6人に1人となり、以前より増加している。市として、今後どのように子どもたちの暮らしを支えようと考えているか伺う。

**市長** 令和5年度からこども食堂への支援、子育て支援カード事業の拡充等を行い、国の政策を待たずに

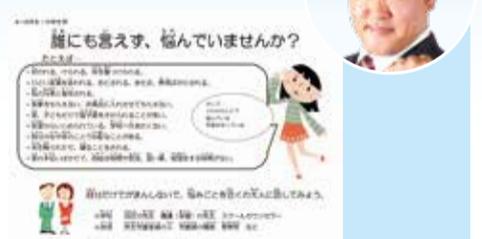
福生の子どもたちに対する支援を展開する。また、令和5年度に設置する子ども政策課を中心に「こどもまんなかふっさ」の新たなスローガンのもと、子育て世帯への経済的な支援にもしっかりと取り組んでいく。

**福生市のヤングケアラーについて**

**質問** 家事や家族のケア等を日常

的に行う18歳未満の子ども、ヤングケアラーへの支援の取り組みを伺う。

**市長** 要保護児童対策地域協議会による見守りや、地域全体で理解を深めるための講演会を開催。また、市内全小・中学生向けに、相談できる場所を周知するチラシの配布等を行い、支援に取り組んでいる。



▲小中学生に配布したチラシの一部

## 行政視察報告

全国の市町村の特色ある施策を今後のまちづくりの参考にするため実施した先進市視察について報告します。視察報告書の全文を市議会ホームページに掲載しています。(右のQRコードよりご覧いただけます。)



### 議会運営委員会 令和5年1月24日(火)～25日(水)

視察先：兵庫県西脇市

兵庫県西脇市での視察の様子▶



#### ① 議会改革の取り組みについて

市民参画、情報共有、議会機能強化が議会改革の柱として位置付けられている。議会報告会、市民団体との課題懇談会、高校生版報告会など福生市議会にはない取り組みが行われている。委員会などの公式の会議は、全てネット中継され、議論の過程を市民と共有できる環境を整備している。議員研修も充実し、審査能力及び政策力強化が図られている。

#### ② 議会DXの取り組みについて

平成27年にタブレットを配布。議員専用Wi-Fiを整備し、議場や委員会室への議員個人のパソコン・タブレット端末等の持ち込みを許可した。災害発生、感染症蔓延防止の観点からオンラインにより委員会に出席することが認められている。令和4年9月にはオンラインによる常任委員会を開催。有志による近隣自治体のDXの取り組みについて調査が行われている。